

[概要]

日本では少子高齢化に伴って自宅での介護を希望する高齢者の数は増えており、それに比例して増加する家族介護者の負担を軽減させるため、デイサービスの利用が期待されている。一方で、先行研究にはデイサービスを利用しても身体・精神的負担が軽減し切れていない事例があると示唆されている。そこで本稿では、家族構成や要介護者の要介護度が異なる家族介護者が、デイサービスを利用しても身体・精神的負担が軽減しきれない事例に関して、それぞれどういった原因があるのか、どういったことが関わっているのかについて考察を行い、どういった支援が必要なのか検討することを目的とした。結果デイサービスによる身体・精神的負担の軽減を妨げる要因として、要介護者の人数以外に、老老介護の場合は家族介護者自身の老化によって思うように外出できなくなることが、同居家族の多い家族介護者の場合は要介護者の要介護度と家族が多いことで引き起こされる家事の多さが、要介護度が高い要介護者を介護している家族介護者の場合は精神的なより所となる他人や逃げ場の存在が関わっていると考えられた。また必要となる支援を検討した結果、より多くの要介護者を受け入れられる介護サービスの整備や、家族介護者に対する外出支援、家を訪問して介護だけでなく家事も代行してくれる介護士の整備、家族介護者が集まる機会や団体を創出することが考えられた。

キーワード：家族介護者， デイサービス， 老老介護， 要介護度， 同居家族， 生活時空間